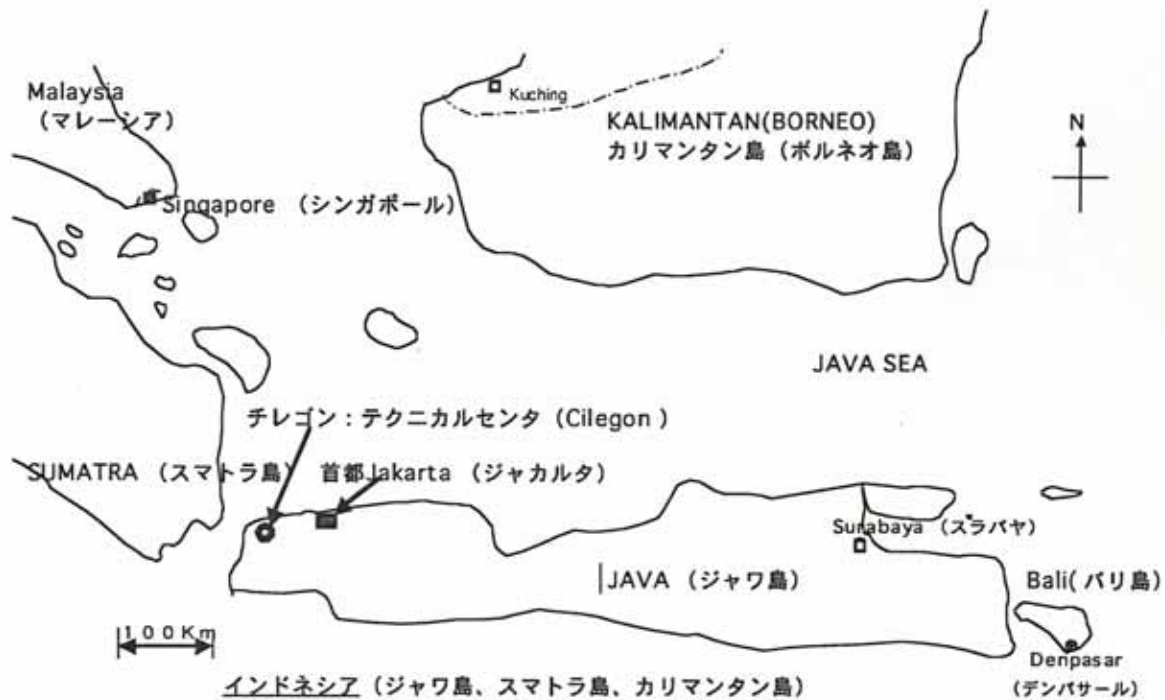


「普段着のインドネシア」

わたかべ ともじ
渡壁 知二*

今年の5月から、インドネシア現地法人に出張で訪れた。そこでの生活の中で特に印象に残った現地の普段の姿を述べたいと思います。

当社現地法人は、インドネシアのジャカルタに本社、ジャカルタの西120kmの工業地帯、チレゴンにテクニカルセンター（技術センター）があります。



技術センター

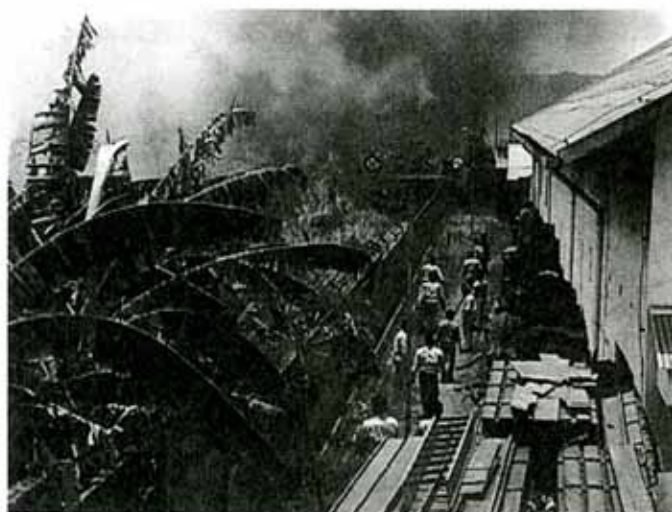
1. 気候

インドネシアは、赤道から南に位置した熱帯に属し、高温多湿の海洋性気候です。

季節は、乾季（6月～9月）と雨季（10月～3月）に大別されています。平均気温は年間を通じて約27℃とガイドブックに紹介されておりますが、実際は6月から8月頃までは、32℃ととても暑いです。しかし日陰に入れば涼しく感じます。

特に部屋の中では冷房がきつく寒く感じます。よって、熱帯地方に行く時はカーディガンかセーターが必要です。また、外気温との差が大きく、体が疲れ風邪を引きやすくなります。

今年は雨季の10月になっても雨が降らないので、あちらこちらで野焼きをしている風景が見られました。それらの火の粉が飛んできて、事務所の残材に着火。乾燥しているそのような火でも風が強くなり、事務所を囲んだ空き地の雑草がほうほう燃えて、事務所が危険に見舞われ、消防自動車を呼んでやっと鎮火することができました。



火事

さすがに駆けつけた消防車は「日本製」で放水も勢いが良く、

幸いなことに延焼はくい止められたが風向きが悪ければ危ないところであった。焼け跡には、小動物が逃げ遅れて真っ黒になっていた。どうもこのようなことは日常茶飯事のようなのだ。

2. 蚊の対策と衛生

雨が降った日には、田舎では「蚊」の大群に見舞われます。最初は「電子蚊取器」を持って行きましたが、「蚊」は元気に部屋を飛び回っています。そこで現地で仕入れた「殺虫剤」を試してみましたが、これは強烈に臭く、頭がクラクラします。これだけクラクラするのはおかしいと思い、医療機関で調べたら、現地の殺虫剤には人間に有害な殺虫剤があり、使用してはいけない成分が含まれていることがわかりました。

いったん帰国した折り、今度は昔から使っていた「蚊帳（かや）」と以前パキスタンに出張したときに使った「蚊取り線香」を持っていくことにしました。なるほど「蚊帳」は、蚊対策に最適。しかも冷房が直接体に当たらずゆっくり眠ることができました。おもしろくなって、「蚊帳」の代わりに「蚊取り線香」を試してみました。部屋中、煙でもやがかかった状態にまでなると、「蚊」はどこかへ行ってしまった。

熱帯地方でも、日本で昔から使っている「蚊帳」と「蚊取り線香」は有効であったことが判明しました。現地製「蚊取線香」は有害物質が入っている場合があるので使用は控えた方がよいでしょう。後で日本の医療機関で聞いたら、「蚊取り線香」はアフリカでも効果があったとのことでした。

最近では、マラリアよりもデング熱が怖い。夜に刺す蚊はマラリアを、昼間刺す蚊はデング熱の危険性がある。デング熱は処置方法が確立されていないため、刺されないよう予防する必要がある。

外出する際は「虫除けスプレー」が有効。それも、現地で欧米製の成分表示が明確な商品を選べば間違いない。日本製は、どうも効き目が弱いらしい。

ある朝、スタッフから電話で、「今病院にいるが、医者から腸チフスと言われたが今から会社に行きます」と連絡が入った。

日本人からすると「腸チフス」は法定伝染病なのでびっくりして、「事務所には来るな」、「しっかり直したことを確認してから出勤するように。それまで自宅で休んで下さい。」と伝えた。

回りのインドネシア人に聞くと、現地では、「腸チフス」は風邪程度の病気としかとらえていない。「なぜ、休まなくてはいけないの?」と言われたときは、またびっくりした。

そして、日本人が現地に長期滞在する場合は、「A、B型肝炎」「破傷風」「腸チフス」の予防接種は必須のようだ。

現地での病気の見わけ方は、「赤痢」は文字通り2-3日の潜伏期間後、便が赤くなったら赤痢を疑い、早く病院に行くこと。

日頃から体力の低下、疲労しないように良く寝ることが必要です。

それに、日常私は、自分で沸かしたお茶を水筒に入れて持ち歩いているので、下痢・腹痛などの予防になっています。

3. インドネシア人気質

事務所には、頭にベールをかぶった人、顔かたちが日本人そっくりの人、インド系、マレー系、中国系など様々な顔立ちに人がおり、ここは一体どこの国かわからなくなってきます。

宗教はイスラム教が主で、世界最大のイスラム社会です。とはいうものの、中近東のようにお酒が飲めない等の厳しさではないようです。



女性事務員

言葉はインドネシア語。朝は「パギ」（日本語のおはよう。本当はスラマト パギというが皆「パギ」と言ってにっこり笑顔で挨拶する。）の挨拶。ありがとうは「テリマカシ」。素晴らしいという誉め言葉は「バグース」。この応用編で「ティダ バグース」で「最高！」という意味になる。この3つの言葉で十分コミュニケーションがとれます。文化の違いもあり、英語ではなかなか通じない場合は、万国共通語である「ジェスチャー」「漫画」「絵」で説明します。幼児に教えているようですが、意外とこれが一番よくわかってくれます。

みんな素直でお話好き。冗談をよく話しているようですが、私はまだ言葉が不自由なのでよくわかりません。なにしろゲラゲラ腹を抱えて笑っているのです。英語がわかる従業員に聞くと、「ただの冗談を話しているんだ」とのこと。どうも陽気な人種だろうと興味を引きます。インドネシア語がわかれば、更におもしろくなるでしょう。

インドネシアには、遊園地もなければ娯楽施設もない。現地に駐在されている日系企業の日本人の方々は、ゴルフを楽しんでいる。その他に楽しみはあまりないらしい。

インドネシア人の休日は、若い恋人同士で手をつないで、町を歩き、ウインドウショッピングを楽しむ。

イスラムの白い衣装をまとい、にこにこ笑顔を振りまいて、横を通り過ぎていった。若い人は恋人同士ならどこでも楽しいことでしょう。



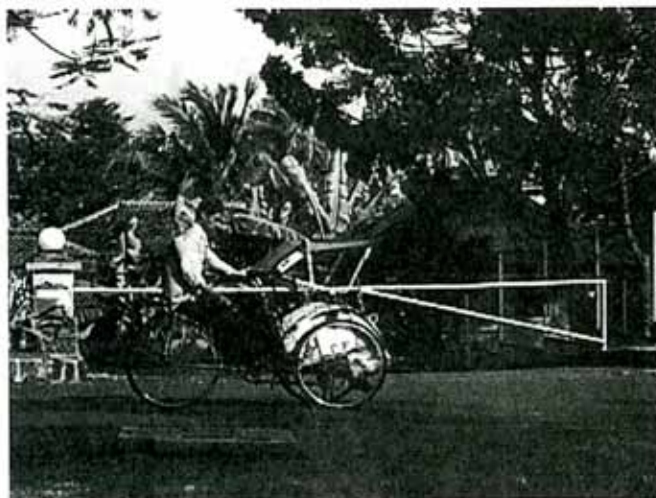
手をつなぎ休日を楽しむ若いカップル

4. 田舎の様子

チレゴン小さな町ですが、町には様々な乗り物があります。

代表的なものは「ペチャ」と言っ、て、人力三輪車です。

前の部分にお客を乗せて、後ろでこぐ。朝のさわやかな季節の時は風を切って走るので気持ちが良い。但し、乗る前に値段交渉が必須。



ペチャ

ジャカルタ近くの国際空港
(スカルノハッタ空港)の近く
で小さい川で、1人の女性ボ
スが10人くらいの奥さん連中
を指揮して朝の7時頃から洗
濯をしているのを見かけた。

それも、おもしろいことに
上流から下流まで行列を作っ
て洗濯していた。1つのグル
ープに1人のボスがついてい
て、地域社会でなんらかの規
則があるように感じた。



リーダーが指揮して川で洗濯している奥さん達

5. 熱帯の自然

ここは熱帯。職場に巨大な
「やもり？」が出現！ 体長な
んと30cm以上、おとなしい動
物で、何もしなければじっと
している。実はこれは現地で
「トッケ」とよばれています。
小さな「やもり」は、どの家
にも見ることができますが、ト
ッケは夜になると出現し、部
屋の壁にへばりついています。
朝になるとどこかに隠れて見
つからない。また夜になると
出現する。あまりにも大きい



職場に現れた小動物

ので、寝ているときに顔をなめられないかと、おちおち寝てられない。

事務所に居ついているが、何を食べて生きているのかがすごく不思議。大きいのでたくさん食べるだろうにそれが疑問です。

やはり田舎では、トッケ防止用にも「蚊帳」が必要なのもかもしれない。これら楽しい小動物は、都会のジャカルタでは見ることができなかったのは残念でした。

仕事をしていても、人々は陽気で笑顔で対応してくれ、このようなハプニングも時々起こるので毎日が飽きない国です。

6. 植物

5月から10月までインドネシアにいて、きれいな花を見かけた。名前はわからないが、あざやかな赤であった。

インドネシアは、3,500の島に2億人が住んでいる。首都のジャカルタはジャワ島、ジャワ島の西端にチレゴン、東端にインドネシア第2の都市スラバヤがある。先日テロに見舞われたバリ島（デンパサール）はスラバヤの東に位置する。

ジャワ島の西にはスマトラ島、北はカリマンタン島（ボルネオ島）、東の島は、パプアニューギニアと隣接するイリアンジャヤがある。なんと東西の距離は、インドネシアから日本までの距離（5,770km）程もある。スマトラ島、カリマンタン島は、ジャングルになっている。この中には、このようなめずらしい花がたくさん見られるらしい。



南洋に咲く花

最後に、バリ島でのテロの一週間後に帰国したが空港では、白人の家族連れでいっぱいであった。おそらく危機管理が徹底していてシンガポール経由で本国に脱出する最中だったのだと思う。シンガポールから日本行きの便はがらがらであった。

今でも現地日本人会は、欧米人が多く集まる場所は、避けるよう注意している。

海外では、安全と衛生は「自己防衛」に頼るしかない。自分自身が正確な最新情報に基づき自分で判断しなくてはならないことを強く感じた。